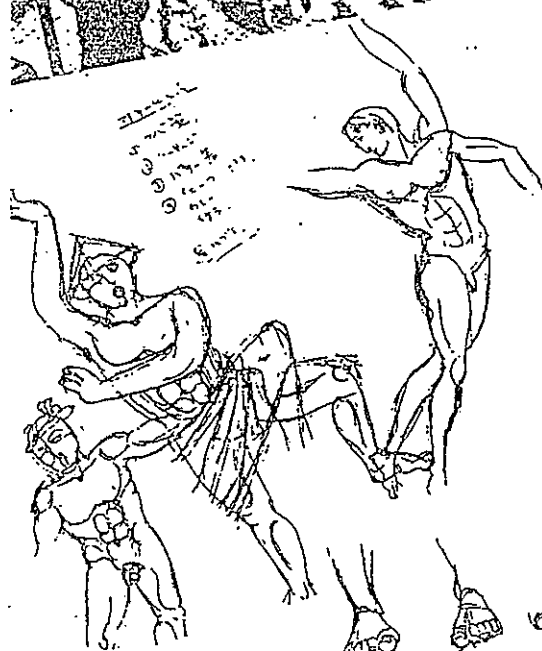




ガジュマル

# 榕樹

宜野湾市民会館  
正面壁レリーフ  
制作創意



あけもどろの大なる御太陽加那志は、すべての生命を慈しむかのようにおしめない恵みをそそぎ、さん然と輝く。

体いっぱいそれを甘受しようとするように身を広げる大樹ガジュマル。無数の葉っぱはざわめき、根は大地をしっかりとつかみどかっとしていて、独特のその気根は地に向かってさらにくい込む。

鳥が梢をかすめ群をなして連風のように飛ぶ。力強くはばたくそれぞれがリズムミカルに上下して右から左へ流れるように連なっているのです。

下方にはバサーヂンを腰にまといハブイをし、のびやかに踊る美童達。クバ笠と手サージで大地をふみしめるように男達も踊る。子供等は動物と戯れ、そしてキジムナーと友達になるのです。伝説の妖怪ではあるのですが、樹の精キジムナーは沖縄の人々の心根にやさしさの象徴として住みつづける妖精なのだろう。友交の縄をいつでもキジムナーは準備して待っているのではないだろうか。

太陽は「希望」と限りない大自然の「恵み」を象徴し飛翔する鳥群は「平和、協調、発展」を意味する。

大樹ガジュマルはいかなる苛酷な条件下でも生きることを止めない逞しい「生命力」で、大地に根を広げる「安定」、多くの生き物に憩いの場をあたえる「やすらぎ」を現わす。

樹の精キジムナーは、わたしたちの心から消えてほしくない未知の世界の、「ロマン」「神秘」を象徴させたつもりです。

そして下方でカチャーシを踊る人々や子供は、上記のすべての力を内包して、エネルギーに力強く生きる「大衆」「欲び」「愛」を表現しようと思いました。太陽、樹、草、鳥、人間、動物、それらのものが渾然一体となって、せり出す動感があって、新鮮な息づかいがあって、あふれる生命力があって、そしてその中から永遠のテーマである「平和」が、顔をのぞかせばいいと思います。

概要

名称	「榕樹」
原画	名嘉睦徳
専業主	宜野湾市民会館
寄贈者	株式会社エスティイー
制作・監理	プロジェクト・コア
所在地	宜野湾市民会館ロビー正面壁
構造	白壁石
面積	150㎡(実質レリーフ面、134㎡)